

# 家族心理学

～2017

科目コード

FC2515



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	平泉 拓

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p.94「社会・集団・家族心理学B（家族心理学）」（科目コード：FC2541）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.94「社会・集団・家族心理学B（家族心理学）」（科目コード：FC2541）を参照してください。

## ■レポート課題

1 単位め	コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題での提出は2017年9月で締め切りました。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

### 1 単位め アドバイス

家族心理学と家族療法は家族のコミュニケーションを重視しています。ポール・ワツラウィックらは、これをコミュニケーションの語用論として概念化し、5つの「公理」を示しています。これはコミュニケーション理論とも呼ばれます。コミュニケーション理論のなかで最も重要な考えは、“拘束（Bind）”です。拘束とは、あるメッセージは一義的には受け手の反応を決定しないが、その反応の選択肢の幅を狭める、ということです。たとえば、「ばか！」と言うと、相手は「ばかとは何だ！」となるか、「どうしたの？」と反応します。ここで、急に踊りだすことは稀でしょう。このように、Aさんの行動は、無数にあるBさんの行動の選択肢を狭めることになり、さらには、Bさんの反応が無数にあるAさんの行動の選択肢を狭めることとなります。したがって、コミュニケーションは“相互拘束”であると考えられます。このようなコミュニケーション観は、私たちが一般的に理解している「コミュニケーションはお互いに思想と感情を通わず相互理解である」という観点とは異なるものです。このような新しいコミュニケーション観によって、家族がどのような状態なのか、家族の変化はどのように起こるのかを検討することができますし、家族療法家はコミュニケーションを使って家族の変

化を家族とともに考えていくことができます。

以上を理解したうえで、コミュニケーションの5つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明してください。

課題については、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で理解された内容をまとめるように心がけてください。

2単位め  
アドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。